

令和 7年 1月 30日

福岡市教育委員会教育長 殿

所属校名 福岡市立板付北小学校
職・氏名 教諭 石 橋 佳 枝
指導者名 教諭 坂 元 勇 生

研 修 最 終 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡小学校研修員
- 2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡小学校
〒810-0061 福岡市中央区西公園 12 番 1 号
TEL (092) 741-4731
FAX (092) 741-4744

3 研究主題及び副題

主題をもちながら表現を追求する第5学年図画工作科学習

～「造形的な視点を生かした鑑賞」を位置付けた題材構成を通して～

4 研究主題及び副題について

(1) 主題設定の理由

ア 社会の要請から

小学校図画工作科の改訂の方向性として、感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成することが求められている。完成した作品を振り返る鑑賞だけでなく、活動中に友達の表現を見たり、作品について会話をしたりしながら、自分の表現に生かすといった何気ない活動でも、子供は無意識のうちに鑑賞をしていると考える。本研究では、題材の中で新たに獲得したり、広げたりした造形的な視点から発想を得て、表したいものに合わせてそれらをどのように生かすことができるかを考えながら、作品をつくったり、つくりかえたりしていく。表現と鑑賞を往還し、自分の主題をもちながら表現を追求する子供を目指していくことは、社会の要請に応えており、価値高いと考える。

イ 子供の実態から

第5学年の子供に「図画工作科の学習は好きですか。」という内容のアンケートを取った結果、96.8%の子供が肯定的な回答をした。一方で、図画工作科の学習の難しさを問う質問には、「作品のアイデアが思い浮かばない」「浮かんだアイデアをうまく表現できない」といった回答もみられた。この結果から、図画工作科の学習に対して意欲はあるが、作品をつくるときに思いをもったり、思いを作品として実現したりすることに困難を感じていることが分かった。同時に、その困難を解決するための手立てがあれば、今よりも、図画工作科に対する意欲が高まったり、つくりだす喜びを実感したり、完成した作品への満足感を感じたりすることができるのではないかと考えた。そこで、造形的な視点を基にした鑑賞を導入段階、展開段階、終末段階の中で計画的に位置付ける。それにより、子供が主題をもち、造形的な視点を生かした多様な表現を自分の作品に取り入れ、つくったり、つくりかえたりしながら、主題を作品に表していくことができる。このことは、子供にとって、主題をもちながら表現を追求するための手立ての一つとなるのではないかと考える。

(2) 主題の意味

主題とは、想像したことや、感じたこと、見たことや自分の経験、身の回りの出来事、心の世界、社会的な話題、伝えたいことなどから生まれた、「表したいこと」がより強く明確になったものである(図1)。本研究では、作品名だけでは見取ることのできない、作者が作品を通して伝えたいことや、作品に込めた思い

を「主題」と設定した。自分が表したい主題をもった上で、作品を表現したり鑑賞したりすることで、その主題を実現するためには、どのような表現を選択していくとよいかを思考しながら表す姿へと繋がっていくと考える。図画工作科の学習指導要領、高学年の内容では、どのように「主題」を表すかを考えることが求められている。このことから、本研究で対象にしている5年生では、「表したいこと」を「主題」に表す姿までを目指していく。

主題をもちながら表現するとは、思いつきで形や色を選択するだけでなく、自分が表したい主題に合わせて形や色などを選択しながら表現することである。例えば、「荒々しい感じのする激しい様子の海」という主題に合わせて、高さのある波を中心に大きくかいたり(構成の工夫)、ドリップングを用いて、水しぶきを白いインクで表現したりする(色の工夫)というように、主題を作品に表すために、どのような造形的な視点を生かした表現を選択すればよいかを思考しながら表現する姿を目指す。

主題をもちながら表現を追求するとは、自分の主題を基に「さらによい表現はないかな。」「自分の思いを、今よりもさらに伝えることはできないかな。」と題材を通して作品をよりよくしようとする姿のことである。本研究では、それらをより具体的に、主に題材の導入段階や展開段階において、自分の主題や主題に合った表現を見つける姿(発想・構想)、主に展開段階において、自分の主題に合わせて表現を選択しながら作品に表していく姿(表現)、題材の全ての段階において、自分の表現が主題に近づくことができているかを見つめ直したり、主題を基に完成した作品のよさや美しさを実感したりする姿(内省)の3つに設定した(図2)。また、主題は、子供によってもち方が異なる。例えば、題材と出会う導入段階で表したい主題をもち、それを作品が完成するまで貫く子供や、導入段階では表したい主題がはっきりと定まっていないが、表現をしていく中でそれをより明確なものにしてしながら作品に表していく子供などである。どちらにしても、表したい主題をもつことで、子供たちはそれを作品として実現するために、題材の中の全ての活動を通して発想・構想したり、表現したり、内省したりしながら表現を追求していくと考える。

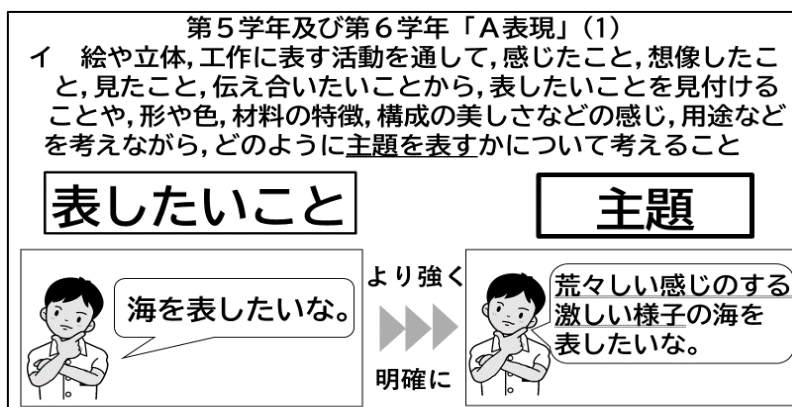


図1 主題について



図2 主題をもちながら表現を追求する姿

- 表したい主題をもったり、造形的な視点を生かしながら主題を実現するための表現を思考したりする姿 (発想・構想する姿)
- 造形的な視点を基に、主題に合った表現を選択しながら創造的につくる姿 (表現する姿)
- 主題を基に自分の表現や、よりよくするための方法を見つめ直したり、自分や友達の表現のよさや美しさを実感したりする姿 (内省する姿)

(3) 副題の意味

造形的な視点とは、子供が表現したり、鑑賞したりするときに生かしている視点のことで、形や色などを造形物として捉えることを示している。造形的な視点で捉えることで、形や色などの特徴に気付くことができる。この特徴は、一人一人がこれまでの経験から培ってきた感覚と結び付けて捉えるものであると考える。例えば、「丸は角が無くて柔らかい感じがする。」といった感覚は、造形的な視点で「丸」という形を捉え、「角が無い」という特徴を、「柔らかい感じがする。」といった自分の感覚と結び付けている。また、これは、「優しい感じを表したいから、丸を重ねて表してみよう。」というように、自分自身の表現に生かされていく。このように、形や色などがもつ特徴を、主題を基にした表現や鑑賞に生かしていることを「理解している」姿であると考える。高学年では、この「理解する」姿が求められている（図3）。



図3 造形的な視点について

「丸は角が無くて柔らかい感じがする。」といった感覚は、造形的な視点で「丸」という形を捉え、「角が無い」という特徴を、「柔らかい感じがする。」といった自分の感覚と結び付けている。また、これは、「優しい感じを表したいから、丸を重ねて表してみよう。」というように、自分自身の表現に生かされていく。このように、形や色などがもつ特徴を、主題を基にした表現や鑑賞に生かしていることを「理解している」姿であると考える。高学年では、この「理解する」姿が求められている（図3）。

造形的な視点を生かした鑑賞とは、単に作品を見るだけの鑑賞ではなく、形や色などがもつ特徴を基に、作品や表現などのよさや美しさを味わう鑑賞である。この活動を通して、形や色などを造形的な視点で捉えて表現したり、自分や友達の作品を鑑賞したりする際に、今までの視点だけでなく、新たな視点を広げながら活動する姿を目指す。例えば、「丸は柔らかい感じがする」という「形」の視点のみで鑑賞していた子供が、「色」という視点を生かして鑑賞したことにより、「丸だけだと柔らかい感じがするけれど、色を青にしたら少し硬い感じもしてきた。」という感覚を獲得することができる。これが視点を広げた姿である。それらを自分の作品に生かすことができる鑑賞を題材の中に設定することで、これまでに培ってきたものとは異なる感覚や、形や色などの特徴に気付き、視点を広げることで表したい主題を実現する姿にもつながると考える。

造形的な視点を生かした鑑賞を位置付けた題材構成とは、図画工作科の学習を、導入、展開、終末の3つの段階に分け、各段階において造形的な視点を生かした鑑賞を意図的・計画的に位置付けることである。導入段階では、造形的な視点を広げ、表したい主題をもつことを目的とした鑑賞を位置付ける。この鑑賞は、参考作品を鑑賞したり、資料と出会ったり、作品をつくる前に試しの活動を設定したりすることで、新たな形や色などを見出し、そこから感じたことを整理して友達と共有することができるようにする。また、このことによって、子供は、自分も持っていなかった視点で形や色などを捉えたり、表したいものへのイメージを広げながら主題をもったりすることができる。展開段階では、主題を見つめ直したり、主題に合った表現を選択したりする鑑賞を位置付ける。この鑑賞を通して、表したい主題をより明確にしたり、導入段階で定まっていなかった主題を見つけたりしながら、主題を作品に表していく。そのときに、①どのような造形的な視点を生かした表現を選択すると、主題を作品に表すことができるか。②自分のこれまでの経験や知識だけではなく、友達や他の表現の中に、自分の主題に合うものはないか。という2つの視点を持ちながら鑑賞することができるようにする。終末段階では、完成した作品と主題を基に、選択してきた表現を振り返る鑑賞を設定する。この鑑賞を通して、主題の実現のために自分自身がどのような表現を選択し、それが作品にどう表れたのかを振り返ることで、よさや美しさを実感することができる（図4）。また、振り返った表現を、別の題材でも生かすことができるように記録として蓄積していく。本研究では、その記録を、掲示板での「図工の家」として蓄積していく。

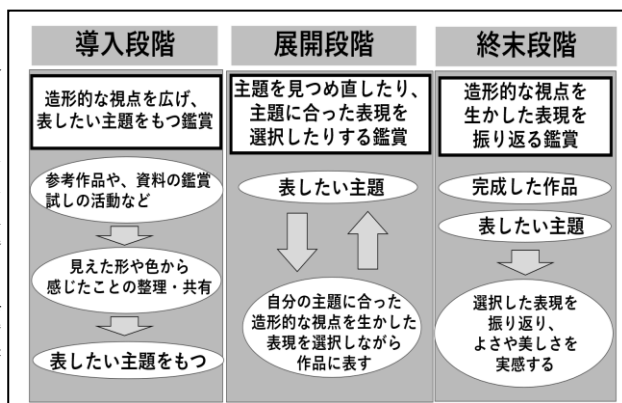


図4 題材構成について

(4) 仮説実証のための着眼

ア 造形的な視点を広げ、表したい主題をもつ鑑賞活動

主に導入段階において、造形的な視点を広げ、表したい主題をもつことを目的として、図工の家とワークシートを活用した鑑賞活動を設定する。図工の家には、「資料の部屋」と知識・技能に関わる形や色などの部屋をそれぞれ蓄積する（図5）。「資料の部屋」を活用した鑑賞によって広がったイメージが、知識・技能に関わる形や色などの部屋と関連付くことで、表したい主題を

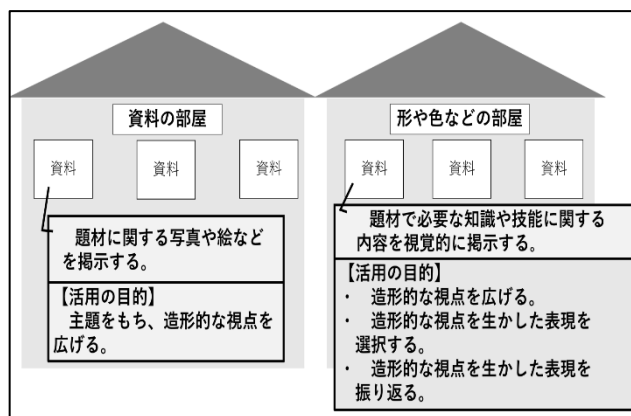


図5 図工の家の目的や具体について

もつことができるようにする。しかし、それらの主題を頭の中だけで整理することは難しい。そこで活用するのがワークシートである。ワークシートには、作品名や主題の他にアイデアスケッチ、イメージマップ、作品の完成度の項目を設ける。子供たちは、ワークシートを活用することで、曖昧だった主題が、言葉、図、絵などで整理され、表したい主題を見つけていく。また、発想・構想段階に限らず、展開段階や終末段階においても、ワークシートを活用しながら自分の作品がどれだけ主題に近付いているのかを見つめ直す鑑賞を設定する。作品の完成度を記入したり、次の表現で、どのような造形的な視点を生かした表現を選択するかを、図工の家を基に計画したりする活動を設定する。それにより、次時の見通しをもつことができ、本研究で目指す「表現を追求する姿」につながると考える。

イ 表現を選択する鑑賞活動

(7) 主題に合わせて表現を選択する観賞活動

展開段階では、主題を表すために、造形的な視点を生かした表現を選択することを目的として、図工の家やワークシートの活用を行う。導入段階で、主題とワークシートを結び付けてもったイメージを基に表現を選択していく。この段階では、主に図工の家の形や色などの知識・技能に関わる部屋を活用する。これを活用した鑑賞によって広がった造形的な視点を生かして、自分の主題に合った表現を選択しながら、作品をよりよくしようとする姿を目指す。また、一単位時間の終わりに主題と選択した表現を友達と共有する活動を位置付け、自分の主題を見つめ直したり、友達の表現から造形的な視点をさらに広げたりすることができるようにする（図6）。

(4) 選択した表現を振り返る鑑賞活動

終末段階では、主題を基に選択してきた表現を振り返る鑑賞を位置付ける。ワークシートとクラスの図工の家から、主題の実現のために、自分自身がどのような表現を選択しその表現が作品にどのように表れたのかを改めて振り返ることで、よさや美しさを実感することができるようにする。

(5) 研究のねらい

第5学年において、主題をもちながら表現を追求する子供を育成するために、造形的な視点を生かした鑑賞を位置付けた題材構成の有効性を究明する。

(6) 研究の仮説

第5学年において、造形的な視点を生かした鑑賞を位置付けた題材構成を仕組むことで、主題をもちながら表現を追求する子供が育つであろう。

備考 ○ 在籍校と電話番号 福岡市立板付北小学校 TEL (092)451-5022

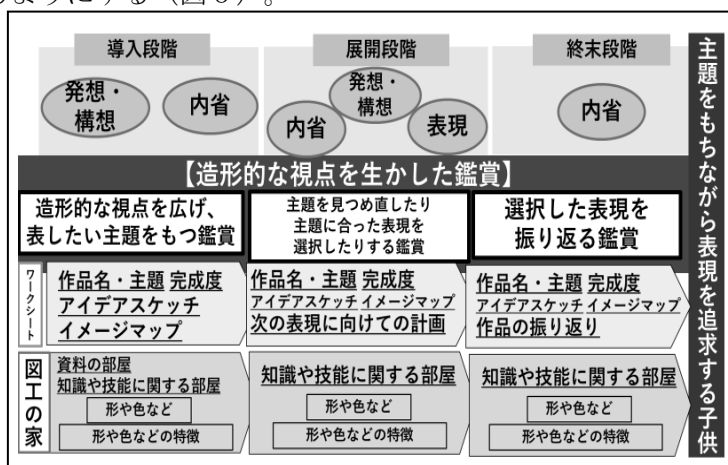


図6 研究構想図

5 指導の実例（10月実証）

（1）題材名 第5学年 「あったらいい町どんな町」

（2）題材の目標

- 表したい町の主題をもったり、それに近付くための表現を色や構成などの造形的な視点を基に思考したりすることができる。（発想・構想する姿）
- 色や構成などの造形的な視点を基に、主題に合った表現を選択しながら表したい町の様子を創造的につくることができる。（表現する姿）
- 色や構成などの造形的な視点で、より表したい主題に近付くための表現を見つめ直し、自分や友達の表現のよさや美しさを実感することができる。（内省する姿）

（3）計画（9時間）

- ア 「あったらいいな」と思う町を想像し、自分が表したい町のイメージをもつ。——— 1時間
- イ 「あったらいいな」と思う町を具体を考え、主題を基に線がきをする。——— 2時間
- ウ 表したい主題を基に、彩色する。——— 5時間
- エ 作品が完成するまでに工夫したことなどを振り返り、自分や友達の作品を鑑賞する。—— 1時間

（4）題材の仮説

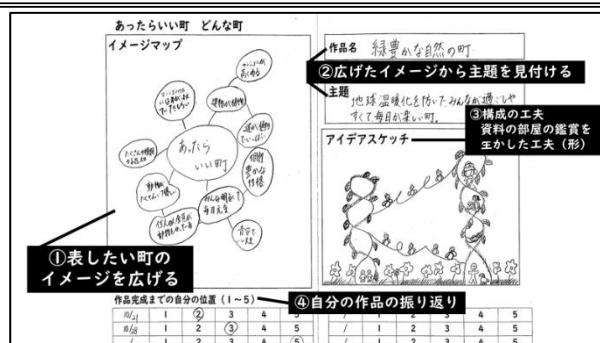
第5学年題材「あったらいい町どんな町」の学習において、次の手立てを行えば、主題をもちながら表現を追究する子供が育つであろう。

- 構成や色などの造形的な視点を広げ、表したい町の主題をもつ鑑賞活動【着眼ア】
- 主題に合わせて構成や色などの表現を選択する鑑賞活動【着眼イ（ア）】
- 完成した町と選択した構成や色の表現を振り返る鑑賞活動【着眼イ（イ）】

（5）指導の実例

ア 導入段階（1／9時）

導入段階第では、表したい町のイメージを広げ、主題をもつことをねらいとした。そのために、参考作品や、資料の部屋を活用して、主題をもつ時の手立てとなるような資料を鑑賞する活動を設定した。その後、ワークシートのイメージマップやアイデアスケッチ、作品名、主題をかくことで、表したい主題を整理することができるようにした。また、アイデアスケッチをかく際、主題に合った表現を色や構成などの視点でイメージしたり表したりすることができるようにするために、彩色による表現の違いを提示する図工の家の色の部屋や、配置、大きさ、方向、数の視点で整理したものを提示する構成の部屋を鑑賞する活動を設定した。



資料1 導入段階における子供のワークシート

考察1

導入段階において、ワークシートを活用してイメージマップやアイデアスケッチをかき、図工の家の資料や色、構成の部屋の鑑賞を設定したことは、造形的な視点を広げ、表したい主題をもつ上で有効であったと考える。その根拠は、資料1に示すように、イメージマップで広げた発想から主題をもち、アイデアスケッチに表す時に、資料の部屋から着想を得たであろう建物の形や、主題が伝わるような構成を工夫しながら表す子供の姿が見られたからである【着眼ア】。しかし、提示する情報が多く、子供自身が発想したり構想したりするための時間の確保が不十分であったことは、課題であった。

イ 展開段階（2～8／9時）

展開段階では、主題や、アイデアスケッチ、イメージマップを基に、「あったらいいな」と思う町の様子を構成を工夫して線がきしたり、主題を基に色や描画材料を工夫して彩色したりすることをねらいとした。そのために、図工の家の色や構成の部屋を鑑賞して広げた造形的な視点を生かして主題を見つめ直しながら表現を選択することができる活動を設定した。具体的には、自分の主題と

それを作品に表すための工夫を一単位時間のはじめと終わりに友達と共有し、そこで整理したことを基に実際に表現していく活動である。

考察2

展開段階において、導入段階で広げた色や構成の視点を生かして、自分の主題とそれを作品に表すための工夫を友達と共有し、それを基に表現する活動を設定したことは、主題を見つめ直したり表現を選択したりする上で有効であったと考える。その根拠は、資料2に示すように「何となく前時の続きの色を塗る姿」ではなく、「自由に楽しい感じを出すために、自分の思うあたたかい色や表現技法を選択しながら彩色をする姿」というような、自分の表したい主題をもちなが表現する子供の姿が見られたからである【着眼ア】【着眼イ（ア）】。しかし、本題材では、主題を実現するためにその視点を作品に生かして、よりよくしようとつくりかえたりする姿はあまり見られなかった。下絵を描いた後は、構成を変更することが難しく、一度彩色した部分の色も大きく変更しにくかったことが原因であると考ええる。

ウ 終末段階（9／9時）

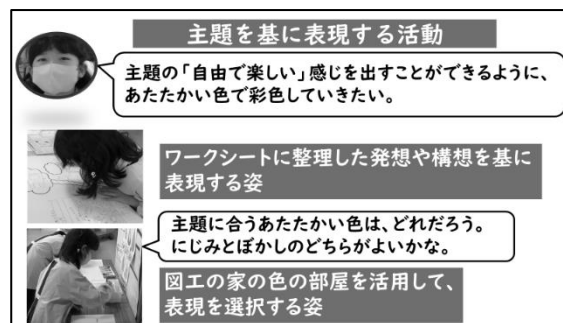
終末段階では、完成した作品と、主題を実現するために行った工夫を振り返る活動を設定した後、友達と作品を見合ったり、全体で工夫を共有する鑑賞を行ったりした。その結果、作品の振り返りでは、主題を表すための工夫点を色や構成などの視点で振り返ることが出来た子供は約70%だった。

考察3

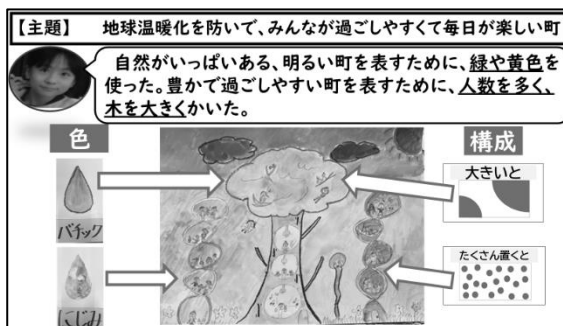
終末段階において、友達と作品を見合ったり、全体で工夫を共有したりする鑑賞を設定したことは、自分の表現を振り返り、よさや美しさを実感する上で有効であったと考える。その根拠は、主題を表すために行った工夫を色や構成の視点で振り返っている資料3のような子供の発言が見られたからである【着眼イ（イ）】。さらに、活動前に教師が具体的な視点を与えずとも友達の作品に関して色や構成などの視点でよさや美しさを見つける姿もみられた。しかし、見つめ直した自分の表現をよりよくしようとつくりかえるために視点を活用する姿はあまり見ることができなかった。図工の家を活用して、全体で色や構成の視点を共有する活動が導入段階に留まっていたことが原因の1つではないかと考える。

（6）全体考察

学習後に、本研究の手立ての有効性を問うアンケートを行った。「ワークシートでイメージを整理したり、表したいことを見つけたりしたことがあるか」という質問には84.3%の子供が肯定的な回答し、「図工の家によって表現の選択肢が広がったか」という質問には85.9%の子供が肯定的な回答をした。その理由としては、「表したいことが見つからない時の参考になった。」「表したい感じが表せなくて困っていたときに、図工の家を見て表すことができた。」などといった回答があった。このことから、「作品のアイデアが思い浮かばない」「アイデアを上手く表現することができない」といった困り感を解決するための手立てとしてアイデアスケッチや図工の家を活用しながら、題材に応じて造形的な視点を生かした鑑賞を行ったことは、有効であったといえる。しかし、造形的な視点を自覚しながら表現する姿が見えにくかったことや、表現を追求するために、つくり、つくりかえることのできる題材の精選が必要であったことは、課題である。図工の家で提示するものを表現の前半と後半で変えたり、視点を意識して表現を工夫する見通しをもつことができるようなワークシートの形式にしたりする必要があると考える。さらに、表現を追求できるようにするためには、作品をつくったり、つくりかえたりしやすい題材を精選する必要があると感じた。



資料2 主題を基に表現する姿



資料3 子供の振り返り